

ひきセン通信



きたかぜ号

ひきセン通信は新潟市ひきこもり相談支援センターの利用者さんの声で作っていく不定期行物です。

もくじ

- 1 両親との過ごし方 (XSEED4000)
- 2 驚いた!! (板垣龍介) 原稿募集要項
ダントツのみじめさ (だめぼよ)

新潟市ひきこもり相談支援センター

TEL 025-278-8585 (相談・予約専用ダイヤル)

両親との過ごし方

XSEED4000

私は現在4人家族です。弟と父と母という家族構成です。しかし何年も前から、母は諸事情で（仕事のこともあり）、実家に住んでいない状態です。離婚とかそういう痴情関係のもつれではなく、弟とかの勉強の邪魔になったりするのがイヤだということなど、心理的に距離をおきたいというのが理由です。

そういうわけで、今は実質上家族3人暮らしです。過ごし方ですが、私は父から話しかけられたときだけ応えるようにしています。ほとんど深夜に起きて活動しているので、一緒に一時的に食事をする以外は顔も合わせません。

弟は私に完全的強烈なKY絶対式があるらしく、険悪な関係です。私も色々とお笑い番組を見せたりして関係修復を図りましたが、本人の真面目な性格もあり、また学校の授業やバイトや友人宅への遊びかなにかとか、ロシア人との交流とかで忙しく、相当熱心に彼は勉強をしていました。高校時代は特に。深夜2時まで勉強しているのが音で聞こえましたから。

勿論私もアルバイトや専門学校の活動、就職活動や趣味のネットなどで忙しく、お互いに幼少のように仲良い兄弟には戻れそうもありません。

対して父ですが性格に問題があっていつもイヤに感じます。まるで人を小バカにしたみたい言動、「自分の存在がなければ今の職場はもっと酷かった!!」とか自画自賛の自慢話の連続で少々うんざりしています。まあ、それ以外にも嫌な性格の露骨さがある個人的には好きになれないのですが、一方で父親としては高く評価しています。政治とか法律とかには非常に詳しいし、宇宙関係も詳しく「オリンポス山って知ってる?」という「火星の最大火山だろ」か結構知識はあるので、よく知ってるなと思いますし、自民党（大企業優遇で派閥体質と官僚とかどうこう）とか、憲法とか、日本人の民度とか、犯罪史とか、外国と日本の考え方の違い（島国特有で狩猟民族でない関係）とか、結構知識はあるようです。高校は県内随一のところにいてただけはあるなと思いましたね。逆に宗教嫌いでもかなりいい加減な適当さがあり、父が無神論者でよかったと思っています。

母は結構外面はいいんですが、これから一步踏み出そうという人に対してネガティブで否定的な意見を私に言ったり、その場しのぎ的な発言をしたりする点がいやですが、父ほど性格が激昂するようなタイプではないので時々会って雑談にふける程度のことが多いです。

まあそういうわけでほとんど家族と一緒に旅行とか外食は今はありません。大体ある程度成人した家族と一緒に食事するなんていうのはあんまりないと思います。要約しますと個々個人の仕事に準じて、自分なりにバランスを考えて生活しているというのが簡単な説明だと思われまます。

私個人としては家族とはいえ、親に対して兄弟に対してなどに好き嫌いはあっていいとは思いますが、不仲な相手との心的距離など家族間のバランスなどは無理をして改善しようとしても無駄で終わるので止めた方がいいと思います。私が母に「父が好きでない」と言うと、母は「家族なんだから好きでなきゃいけない」というふうな事をいいますが、確かに一般論としては家族は愛し合うべきなのかもしれませんが、私は疑問に感じます。「じゃあ母の職場の嫌いな上司や近所の関係の悪い人はなぜ嫌いでもいいの?」と聞き返したら、「それはそれで別の話だから」と話をはぐらかされました。職場だって一社会としてみれば、いい関係を構築するのが主だと思えるのですけれども。そのほかの事案についても個々に妥協点を見つけて試行錯誤して考えていくべきなのかなと思います。説教臭い話になって申し訳ありませんでした。まあわたしもあの人とは絶対に・・・無理ですね。

驚いた!!

板垣龍介

最近、小学校では休み時間にグラウンドで遊ぶ学年が、時間毎（曜日毎？）に決まっているみたいです。なんでも、「ぶつかって怪我をしたら危ない」からだそうです。

人が大勢交わる場所では、怪我もあるでしょう。時にはケンカもあるでしょう。確かに大事に至ってしまうこともあるかと思えます。大事に至る前に手を打っておくのも必要でしょう。しかし、高学年が低学年の面倒を見る、低学年が高学年を見て学ぶなどの機会も、同時に失われるのではないのでしょうか？

予防策が大事なのは分かりますが、他人との接触・交流、怪我などが無いまま大人になるのも、いかなものかと考えつつ、学習とリスクのバランスって難しいなと感じました。

ひきセン通信原稿募集

ひきセン通信編集部では、利用者さんからの原稿を募集しています。テーマは自由！…なのですが、それが一番困るらしいので、以下にガイドラインを掲載させていただきます。

ひきセン通信原稿募集要項

対象：ひきこもり経験のある方（※自称可）

文字数：100～1200文字目安

テーマ：家族に言いたいこと／私の仕事（人生）観／こもりながら考えたこと／世の中に物申す／トラウマ体験記／趣味、楽しみ／お医者さんのこと／異性や友人関係／昨日の晩御飯／イラスト・写真

応募：メール、持ち込み、FAX可。手書きでもデータでも歓迎です。ペンネームと連絡先（メールアドレスまたは電話番号）をあわせてお知らせください。

※誤字脱字、一部固有名詞については校正をさせていただきます。

ダントツのみじめさ

だめぽよ

僕には姉と弟がいる。僕が実家にこもっている頃、彼女らはすでに家庭を持ち、県外で生活をしていた。僕には母がいる。僕がこもっている間も母はせつせと働いていた。母には学生時代からの友人が何人もいる。姉と弟と母の友人たち、それとひきセンの職員だけが、僕を訪ねてくる人々だった。母は（今思い出しても鼻水が出そうになるほど）僕に向き合ってくれていた。悪く言えばウザったかったが、そう感じていたのは僕自身が自分を受け止める準備ができていなかったせいだ。当然、母の気持ちを受け止める準備もできていなかったのだから、我々は日々盛大にすれ違っていたのだ。

唯一生活を共にしている母から、僕の状態を聞きつけて彼らはやってきた一と、僕は思い込んでいた。憐み、嘲笑、偽善、自己満足、そんな感情を受け取ったり共有できるはずがない。僕があ頃持っていた一番大きな感情は、ダントツで「みじめさ」だ。「会いたいわけないだろッ！ いい加減にしろッ！」と跳ね返す気力もなかった。もうね、病気の域。

なんて言ってほしかっただろう。たぶん「辛かったよね。毎日、苦しいよね。ゆっくり休んでいいんだよ」だと思っ。こもり終えて1年以上経つけど、まだ思い出すと泣けてくる。

誰に、言ってほしかっただろう。きっと家族や母の友人から言われても、ダメだったろうと思う。だって彼らは、以前の僕と今の僕を較べられる人たちだもの。較べてしまうから、その時の僕はとっってもみじめな気持ちだった。味方と認識できる家族なんていなかった。それどころか自分も敵だった。

自分と闘ってボロボロになって、家族からガーガー言われ続けたら、夜中にゲームをするくらい普通じゃないのなんて、怒られそうだけど。でも僕は闘ってた。話せる相手も、理解してくれる相手もいなくて、助けを求めることも心情としてできなかったから、ぼっちで自分と闘ってた。訪ねてくる人々は外野だった。自分でなんとかしたいという気持ちも強かった。ひきこもっている上に、人に助けまで求めるなんてみじめさが加速する。助けを求める切実な事情や、緊急性がなかったとも言えるかもしれない。いずれにしても、死ぬまでひきこもるつもりなんてなかった。消えてなくなりたかったけど、そんな方法は見つからなかった。

自分と停戦条約を結び「ぼっち内戦」が終結して、それじゃあってことで外交を再開した（と言ってもひきセンに電話を入れただけだけど）。ひきセンから訪問をされている間に、少なくとも彼らは敵ではないなと思ったし、もし復帰するならまずここにしか相談をする相手はいないんだろうなとは思っていた。

この文書をどんな人が目にしているかは分からないけれど、少なくとも「ぼっち内戦」ができる環境が整っているといいなと思う。